

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400716		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3373400716-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を山に囲まれ真庭市の自然を感じられる位置にわが施設があります。今までの生活と変わらない四季折々の景色を楽しみながら、利用者も家族も笑顔になれるような介護を目指しています。天気の良い日は裏庭に出て日向ぼっこをしたり、畑に色々な野菜を植えて、収穫したエンドウやさつま芋、玉葱等を使った料理を作り、できるだけ我が家のような暮らしをしています。そして桜の時期は施設周辺が見事に桃色に染まり、お花見を満喫しています。また、毎年地域のまちかど展覧会に参加し、作品づくりにも力を入れ目標を持って取り組めるように計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の本意を大切にされた支援を職員全員で統一している。「皆で塗り絵をしましょう。」ではなく、選択肢をいくつか提案し、その都度利用者の思いを聞き対応をしている。家族から「料理が好きなので手伝わせて欲しい。」と言われ、いつも調理を手伝ってくれる利用者にも、当たり前のようにしてもらっているのではなく、「調理と塗り絵等どちらをされますか。」と確認している。また、利用者の思いを受容することを重視している。「帰りたい。」と言われれば、「私達も夜家に帰りますよね。帰りたいですよ。」と共感することで、落ち着いた毎日を過ごすことに繋がっている。職員の人間関係も良好で、勤続年数が長い職員も多く、家族の安心にも繋がっている。人員体制を多めに配置することで、職員の負担も少なく、定年後も継続して働くことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、グループホーム独自の理念を目につく場所に掲示している。申し送り時や会議の時に学べる機会を設け理念に沿ったケアの実践に繋げている。	職員に理念について尋ねると、同じ答えが返ってきたことから分かるように、理念は共有され実践されている。理念である「笑顔を忘れず利用者に向き合います」では、出勤時には必ず、利用者一人ひとりに挨拶に行き、笑顔を絶やさないよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内の事業所同士で「花見・夏祭り」を開催したり、「まちかど展覧会」「河内ミニ文化祭」にも出品し作品を見学することで地域の方と会話ができている。	「落合まちかど展覧会」を交流ホールで実施し、地域の人たちが大勢見学に来てくれ、利用者との交流も行われた。また「河内ミニ文化祭」にも作品を出展し、利用者は見学者から聞かれる質問に受け答えをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症キャラバンメイトに登録して、地域のイベントや認知症サポーター養成講座に参加して、認知症に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方が出席しやすい日時を調整して開催している。各種行事に参加していただいたり、作品を利用者と一緒に作ったりして、利用者の日常生活の様子を報告して意見を聞いてサービスの向上に活かしている。	事業所の取り組み内容を理解してもらうため、夏祭りや花の植え替え作業などを手伝ってもらっている。利用者とは馴染みの関係となり、訪れた時は会議が始まるまで、利用者とお話をしてくれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や真庭市内のグループホーム連絡会議に市の担当者も出席し、情報交換やアドバイスを頂いている。	運営推進会議の場で、利用者と一緒に作品を作るなど、交流を図っている。また、行政からの依頼は快く引き受けている。地域包括支援センターからの要請で、認知症カフェも手伝っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、職員全員に身体拘束をしないケアを徹底して実践できるように努めている。	身体拘束をしないケアを実践している。入口は鍵を閉めていないので、利用者は建物内を散歩することができる。法人の事務所まで行き、職員とお喋りを楽しんだり、本を借りたり等、自由に過ごしてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0推進委員会の中で虐待について事業所内で話し合い、防止に努めている。真庭市に依頼して、施設内研修に参加し事例検討を通して意識付けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入所されている利用者は、全員ご家族が本人に代わって金銭管理を行っている。市で開催される研修があれば、参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、介護保険制度の改定の度に、利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望を聞けるようにしている。また、運営推進会議や面会にいられた時に直接お伺いしている。法人の会報やホームの新聞を発行し、情報提供している。	個別ケアを大切にしている。全員で塗り絵など同じ事をするのではなく、利用者とその都度聞いている。家族に要望を聞くと今のままで十分だと答えられるので、利用者の好むことを尋ね、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議の報告を職員に伝え、資料があれば共有できるようにしている。また、法人の副主任会議に出席してその内容を他の職員に伝えている。	常日頃から要望や意見を聞く機会を設けている。さらに毎月の職員会議でも、職員の意見や要望を聞いている。職員数を多めに配置しているので、職員の負担も少ない。働きやすい環境のため、勤続年数の長い職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事制度構築委員会を設け、現在スケジュールに沿って進行中である。職場の環境については労働安全衛生委員会を定期的に開いて、メンタル面や職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を年6回程度企画し、必ず1人以上参加し、講習伝達している。また、外部の研修も参加できるように勤務体制を考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市内のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの意見交換や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人となじみの関係をつくり、ゆっくりと本人の希望や困っていること、心配なことなど傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族と面談し、不安なことや要望等を聞かせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所になっても、今までと変わらない生活を送れるように、本人の必要としている支援を家族や担当のケアマネさんに情報提供していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し等)や本人の役割を明確にして作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現状を話し、本人が望まれている事で家族のできる事をお願いしている。定期的に「十字園グループホーム新聞」を送付して、利用者の様子を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の知り合いや友人が来られた時に、居室でゆっくりと楽しい一時を過ごしてもらえるようにしている。また、関係が途切れないように行事を通して再開できる機会を作っている。	請求書を郵送する際、行事の案内も一緒に送り参加を呼びかけている。系列のグループホームに転居した利用者は、ケアハウスに訪問美容院が来た時は訪れ、継続的な交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話をしたり、お互いに助け合って作業している時は、見守りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて家族の相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や行動から、本人の思いを理解し納得できるように援助している。自分の思いや希望を話すことが難しい方は、寄り添い会話や行動で思いや意向の把握に努めている。	個別ケアに力を入れている。一人ひとりの個別ケアをこまかく尋ねると、利用者の思いを汲んだ対応をしていることが伺えた。利用者に趣味の料理や裁縫など、当たり前にしてもらうのではなく、毎回希望を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の談話の中で利用者がしてきたことなど、気付いたことや面会時家族から聞いたことなど、情報の把握に努めている。また、在宅での担当ケアマネから情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態に合わせて日課を決めて、できる事をしてもらいながら無理のない生活をしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録や介護職員や家族からの意見を参考にアセスメントを行い、モニタリングを6ヶ月ごとに実施し、個々のニーズに沿ったケアプランを作成している。	介護計画は個人のケース記録ファイルにも綴じられ、支援内容を職員間で共有している。毎月行われる職員会議で利用者の状況を話し合い、介護計画に反映させている。家族には面会時に要望等を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を付けて、利用者一人ひとりのニーズにあったケアを考えて共有しながら実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった介護ではなく、個々にあった支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の事業所に、大正琴・銭太鼓・踊り等の慰問の方が来られたら、見学に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診を定期的に受けている。また、本人にあった病院を家族の協力で受診している。緊急時には訪問看護師に連絡して、医師と連携を図り対応している。	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族と協力している。基本的には、家族に通院を依頼しているが、不可能な時には職員が病院へ連れて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H28年から訪問看護師が毎週1回訪問し、個々の健康状態を把握している。状態が変わった時は相談して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。入院時にはその病院のソーシャルワーカーに連絡して「真庭共通シート」等で情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と話し合い医療的管理の必要な方は、十分な治療ができるよう協力医に相談しながら今後の方針を考えて説明している。	終末期の対応については、入居時に事業所が対応できる最大のケアについて説明をしている。重度化した場合は、医師と相談しながら今後の対応を家族と話し合い支援に努めている。	重度化した場合の対応について、家族との話し合いの機会を再度設けることに期待を寄せる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルに沿ってOJTを行っている。また施設内の研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体の総合防災訓練を年2回行っている。その内1回は地元の消防団の協力を得て、施設内の誘導避難訓練を実施している。ホーム内で毎月1回行っている自主訓練で、「こんな時はどうするか」等意識づけをしている。	年度末に1年間の反省を基に、次年度の防災計画を作成している。いざという時慌てず確実な避難誘導ができるよう、毎月防災訓練を実施しているので、利用者の誘導もスムーズに行われている。日中と夜間帯に連絡網通りに電話をして、繋がるかどうかの確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの居室の訪問時には、必ずノックしたり声をかけて入室している。どうしてよいか戸惑っている時は、その人の人格を損ねない様に会話して対応している。	「利用者一人ひとりの尊厳を大切にします」を理念にも掲げ、実践している。利用者の自尊心をくみ取り、大切にしている。何着も服を着る利用者には、熱いお茶を飲んでもらう等、自ら服が脱ぎたくなるような対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で利用者の希望や関心を見極めそれを基に本人が選択できる場面を作っている。例えば余暇時間にはそれぞれ好きな作業を選んで行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて希望を聞いて支援している。また口に出されない方には、表情や動きから察し希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服が着られるように衣類の整理を一緒にする。また、入浴時の着替えは本人の着たい服を一緒に準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の献立をお知らせして、具材の切り方を思い出しながら料理をしている。裏庭で収穫した野菜を使って献立に入れる事もある。また誕生日の方には好きな食べ物を聞いて、できるだけ希望に沿えるようにしている。	利用者に好きな物を選んで食べてもらいたいとの考えでバイキングを実施した。日頃の会話から「揚げ寿司や卵焼きが食べたい。」と言われ、品数に加えた。秋祭りの日には、慣れ親しんだ郷土料理である鯖寿司や刺身を提供し、利用者から大変好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立を基に調理している。水分量が確保できるよう、動いた後にはお茶やレモン水等を頻回に勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。入れ歯の方には定期的にポリドントを使用している。また歯のない方にも口腔ケアの支援をし、出来ない方には介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立できている方にはトイレの場所が分かるように、自然な声掛けをしている。夜間はポータブル使用の方にも、昼間はトイレでの排泄に取り組んでいる。	トイレへ誘導する際は、「入浴するのでトイレはありますか。」と理由を伝えて、納得した上でトイレへ行ってもらっている。ポータブルトイレの利用者から、落とし紙を希望され、対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の活動前後には水分補給をしている。夜間にも排泄後には水分補給している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否される方には、トイレに立たれた時などタイミングを見て、声かけをして入浴をしてもらっている。体調の悪い方でも足浴を行っている。また、菖蒲湯やゆず湯等楽しむ支援をしている。	浴槽は家庭用の物と似ているので、他施設で機械浴に入っていた利用者が、「自宅と変わらないので気持ち良いわ」と言ってもらえた。円背の人も居るので、浴槽に椅子を置いたり、湯の量を調整したりして、安心して湯に浸かってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩や洗濯干し、調理等の家事全般を職員と一緒にいき、体を動かすように働きかけている。また、室温にも注意して安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に朝・昼・夕とケースに分別し、指示通りの服薬ができるようにしている。服薬は職員が手渡して内服できたか確認している。状況の変化があった時は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの経験を生かし、食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	中庭に出て時期の花や野菜の苗を植えて成長を見に行ったり、収穫し外へ出る目的を作っている。また、足元の不安定な方にも傍につき添って、一緒に出ている。日曜日には近くの店に車でおやつを買いに出かけている。	建物内や敷地内は自由に散歩ができる。裏庭にある畑に野菜を植えたり、収穫したりなどもしている。2週間に1回は、コンビニエンスストアに利用者と一緒に買い物に出掛け、好きなおやつを買って帰る。孫の結婚式に招待され、参加する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不穏になる方がおられるので、必要な方は小銭程度を所持してもらおう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話がかかった時は、本人に繋いでゆっくり話してもらおう。自ら電話をかけたりできない人は、暑中見舞いや年賀状が書けるようにお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを観たり、気の合う人と会話を楽しめるように広いテーブルと椅子を用意し、本人の好きな場所に座っていただいている。利用者に玄関の花を活けていただいたり、作品を飾ったりして自然に話題を提供できるようにしている。	建物周辺に桜を植え、春には花見が楽しめる。事業所の各処に花を飾り、「この花の名前は何か。家でも植えてたよ。」と会話も弾んでいる。庭に一畳台を置き、皆で座って景色を眺めやすくしている。こたつの脚を高くし、ソファに座った状態でも入れる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人とテレビを観たり会話できるように、ソファや椅子を置いている。また、食堂には利用者の手作りの座布団カバーを掛けて、安心できる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室の場所が分からなくなっても、部屋に入ると自分の部屋だと分かるように、馴染みの物や家族写真を飾って安心できるように工夫している。	自宅から持ち込んだ家具等を、使いやすいよう自由に配置してもらっている。猫が好きでたくさん飼っていた利用者の居室には、ぬいぐるみ等たくさんの猫グッズを置いている。仏壇を持ち込み、毎日水を取り替えている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「洗面所」や「トイレ」等の場所はわかりやすく手作りの表示を掛けて、できるだけ一人で移動し我が家のように生活してもらっている。		